

花きの県別生産出荷概況(10月見通し)

令和2年9月30日現在

出典:花き流通情報連絡協議会資料

品目	県名	作型	主要品種	出荷期 期間 (ピーク)	作付面積 ha (前年比)	出荷見込み		5月のピーク(%)			主産地	作柄及び概況
						出荷総数 千本 (前年比)	京浜地域向 千本 (前年比)	上旬	中旬	下旬		
バラ	群馬県	施設 (周年)	アヴァランチェ サムライ08 ほか	周年 (5~11月)	11.8 (97%)	896 (97%)	624 (97%)	33	33	33	前橋市 富岡市 昭和村	生育は順調に進んでおり、主産地である前橋では春に改植したものが本格的に出荷始まる。今後は、気温の低下に伴い全体的に品質が向上していく見込み。10月については平年並みの出荷を見込む。問題となる病害虫の発生はみられない。
			アイスクリーム アバランジェ アーロン レモネード	周年 (5・10月)	733 (100%)	4,949 (100%)		40	30	30	岩見沢市 JAいわみざわ	昨年より出荷量は減少する見込み。(暑さにより前進)
アルストロメリア	長野県	ハウス 作型	ピンクティアラ ハニーソフィア マッサ ベルーガ	周年 (4月)		900 (102%)	350 (102%)	25	35	40	上伊那 信州諏訪 佐久浅間 松本ハイランド	定植初期の気温が低かったことから活着良く、生育順調。9月に入り徐々に気温が下がってきているため、発色良くなっている。新植株出荷スタートと共に、数量増加していく。 今年度導入の新品種・据置含め生育は順調で、9月以降出荷増見込み
トルコギキョウ	北海道	促成 ~	ハピネスホワイト モンロー モアナLP マキアLP	(8~11月) (8~11月) (7~10月) (7~8月)	2,207 (102%)	3,530 (107%)		50	35	15	由仁町 JAそらち南	高温で推移しており生育は10日ほど早まったまま。出荷量はお盆頃から変わらない数量が出ているのでこのままだと出荷終了が早まる見込み。
			50	35				15				
			50	35				15				
トルコギキョウ	長野県	抑制 作型	ハピネスホワイト セミファイナルローズ 海あやか しずく	(7~11月) (8・10月)		1,200 105%	400 100%	40	40	20	信州諏訪 上伊那	気温の高い日が続いており、丈短くボリューム不足のものが多くみられている。9月下旬~10月の抑制作型が増えており、前年に比べて出荷数量増を見込んでいる。
			ミヨシ系 サカタ系 八江系など	周年	夏秋 9.8ha (98%)	499 (80%)	115 (80%)	30	30	40	熊本市 菊池 やつしろ くま	JAやつしろ・くまにおいては、10月の上旬頃から出荷開始予定。JA菊池・熊本

花きの県別生産出荷概況(10月見通し)

令和2年9月30日現在
出典:花き流通情報連絡協議会資料

品目		販売における現状と今後の見通し	
バラ	現状	7月の長雨からの8月の高温により丈が非常に短く、出荷出来ない品質も出ている。コロナの影響により九州、四国、輸入品と非常に少ない入荷(大田)。婚礼やイベント少なく上位等級の価格が伸び悩み。下位等級は量販店系で安定(FAJ)。暑さで、かなり花が小さくなってきている。また、ブライダル需要の低迷が続く中、敬老などの需要に関しても間際の仕入れであり販売は苦戦している。間際になり若干のブライダルや敬老の日需要で赤バラが動き始めた(第一花き)。高冷地中心に上位等級の引き合いが強い。連休に向けて相場は好調。暖地産の出荷は後半に向けて増える(世田谷花き)。生育状況は高温の影響により各産地下位等級の発生率が多い。ボリュームのある上位等級の引き合いは強いが、量販系の動きが鈍く、下位等級の販売は弱い(東日本板橋)。	
	見通し	大田花き	9月の気温次第ではあるが、中下旬頃より徐々に国内産は品質が向上し、上位等級の割合も高まる。
		FAJ	婚礼繁忙期突入も需要は不安定。産地は高冷地から徐々に西南暖地に移行
		第一花き	本来なら業務需要や展覧会などで引き合いが強まるい時期であるが、今年は鈍い動きになりそうであろう。しかし花展の再開などうれしい話もきている。
		世田谷花き	各産地数量も安定する。上位等級中心の引き合いは引き続き強い。
東日本板橋花き	各産地順調な出荷量の見込みだが、婚礼需要は例年の5～60パーセントくらいで小売、量販主体の販売か。		
アルストロメリア	現状	8月の高温、9月の曇天で咲きが鈍り、出荷量は少ない状況。白・ピンク・紫中心に葬儀需要では引き合い多いが、中旬までは気温も高く、小売りでの使用は少なかった(大田)。長野・山形などより入荷。昨年並みの入荷数量で相場も昨年程度。安定した販売続く(FAJ)。全体的に夏場の暑さで葉焼けや花飛びなどの障害があり、彼岸時期は若干少なく下旬から徐々に増加。動きは需要と供給バランス次第(第一花き)。業務中心に安定した引き合い。北海道産減少し、長野県産増える(世田谷花き)。青森・愛知中心の入荷。昨年より少なめの入荷。業務中心の動き(東日本板橋)。	
	見通し	大田花き	各産地、白・ピンク・黄色中心に安定出荷の予定。オレンジ・赤・紫は少量。出荷量少ない状況から、下旬に向け増加していく見込み。
		FAJ	引き続き長野・山形などより入荷。昨年並みの出荷数量を予定。
		第一花き	10月からは徐々に増加、本格的な出荷に期待。品質面では夏場の暑さの影響が心配ではある。
		世田谷花き	引き続き安定した引き合い。新品種等、色数も多くなってくる。
東日本板橋花き	愛知・青森中心の入荷。昨年並みの出荷予定だが、天候次第で入荷の増減あり。		
トルコギキョウ	現状	7月の長梅雨の影響から生育遅れがあり、品薄感から彼岸需要期は高値での取引となった。彼岸明けは遅れていたものが出てきたが、出荷できないものもあり、数量は予定より伸びなかった(大田)。前半やや苦戦した販売も彼岸需要期に入り取引活発に。山形や長野など高冷地主体(FAJ)。例年並みの入荷であるが、9月前半の動きは鈍く、セリ場に残る比率が高く単価は下げとなる。中旬からはお彼岸などの動きで下物の単価があがる。菊類の不足で洋花類の動きが活発となった(第一花き)。猛暑の影響で全国的に開花前進。イベントは未だ少なく。落ち着いた展開(世田谷花き)。東北・北海道産はやや前進傾向。婚礼需要はあるが、まだ少ない。量販向け需要が強い(東日本板橋)。	
	見通し	大田花き	長野、秋田、福島が主産地となり、福岡、熊本など暖地の出荷も始まる。
		FAJ	東北産地徐々に数量減少し、関東や九州など西南暖地増え始める。数量は昨年並み程度。
		第一花き	高冷地中心であり、特に今年は輸送面で東北産地中心である。しかし、早い産地は10月上旬から徐々に切りあがり、中下旬からは徐々に少ない感じになるであろう。
		世田谷花き	北海道がほぼ切り上がり。長野県産など増えてくる。暖地も始まりつつある。
東日本板橋花き	引き続き東北・北海道産 北関東産も出荷が始まり、順調入荷の見込み。		
りんどう	現状	産地により前進傾向にあるが、総じて例年と比べ生育状況は良く、選別時の不良品も少ないため市場への出荷量は安定。紫系、ピンクは潤沢、パステル系は作付け量も少なく、需要期は不足した。白は後半から数量増加(大田)。秋田・岩手などより入荷。雨などの影響で入荷はやや少なめ。彼岸需要期は活発な取引(FAJ)。3号系の品種が前進傾向で、注文の一番多い16日頃には品薄傾向となりそう。高値で動いたが入荷量は少なかった(第一)。やや前倒し出荷。中下旬に向けてやや品薄になっていく(世田谷)。	
	見通し	大田花き	秋品種中心に、下旬に向けて数量は落ち着く。紅葉等も見られ引き合いも落ち着く時期となる。
		FAJ	終盤。晩生系主体の入荷。数量は昨年並み程度。
		第一花き	笹りんどう等残るが、15日頃に出荷が終わる産地が多い。
世田谷花き	笹系・深山系増える。入荷安定。		
ストック	現状	下旬ごろから出荷、数量は少なめとなる(大田)。	
	見通し	大田花き	天候の影響により若干の遅れがあるが、東北方面から徐々に数量増加する見込み。
		FAJ	山形などより月後半より出荷予定。